

福岡県におけるスギ品種とヒノキカワモグリガの加害状況

福岡県林業試験場 大長光 純
林業科学技術振興所 倉永善太郎

1. はじめに

ヒノキカワモグリガの加害状況がスギ品種によって違いがあることについては、山崎ら(1)、倉永ら(2)(3)、川野ら(4)の報告があるが、まだ資料は十分とは言えない。このたび福岡県八女郡において、品種別加害状況調査を行なったのでその結果について報告する。なお調査にあたっては品種の鑑定や現地調査に協力していただいた福岡県林業試験場の宮原文彦研究員に対して厚くお礼申し上げる。

2. 調査地と調査方法

調査地は八女郡星野村で2林分、矢部村で1林分の計3林分である。調査は1987年8～11月に行なった。調査地の概況を表-1に示す。調査地はいずれも品種別に列状に植栽されている。調査方法は各試験地から品種毎に林縁木以外について10～20本程度選木し、各々の調査木について胸高直径、樹高を測定し、地上高2mまでの樹皮表面に現われているヒノキカワモグリガの加害痕数を数えた。ここでヤニ、瘤両方とも加害痕として数えた。各調査区の品種別調査本数と胸高直径、樹高の値を表-2に示す。

表-1 試験地の概況

試験地	標高 m	面積 ha	立木 本数 /ha	林齢	傾斜度	方位
星野村I	560	0.20	2500	25	15-25	西北西
星野村II	250	1.12	2000	28	30-40	北北東
矢部村	440	0.52	1800	36	20-30	東南東

3. 結果と考察

品種毎のヒノキカワモグリガ加害痕数について図-1, 2, 3に示す。図から星野Iの調査林ではアヤスギとシチゾウに加害痕が多くその他についてはあまり差は無かった。星野IIでは全般に加害痕は少なかったが、アカバとヤマグチがやや多かった。矢部ではヤブクグリに特に多くアヤスギがこれに次ぎ、ヒコサンは少なかった。

調査地別の被害痕数の差は、ヤマグチはほぼ同じで、シチゾウ、ヤイチ、コガ、アヤスギ、ウラセバルでは標高の高い方が多い傾向を示した。しかしその他の原因も考えられるため今のところは標高により被害数に差が出るとは言えない。

表-2 調査地毎の品種別樹高と胸高直径

星野村I 品種	調査 本数	胸高 直径cm	樹高 m	星野村II 品種	調査 本数	胸高 直径cm	樹高 m	矢部村 品種	調査 本数	胸高 直径cm	樹高 m
アヤスギ	18	11.8	9.8	アカバ	20	17.2	16.1	ヤブクグリ	9	15.4	13.7
シチゾウ	20	14.7	11.9	ヤマグチ	20	16.0	13.9	アヤスギ	12	20.5	16.8
ヤイチ	17	14.1	11.9	シチゾウ	20	17.6	16.0	メアサ	9	19.8	16.1
クモトオシ	20	15.1	12.8	コガ	16	24.8	17.5	ウラセバル	9	21.5	18.4
キウラ	11	16.5	12.1	ヤイチ	24	25.5	19.2	サンブスギ	13	28.4	18.5
ヤマグチ	25	15.7	11.9	オーブチ	20	16.7	15.7	ヒコサン	9	20.6	16.3
ヒノデ	17	13.4	11.5	ウラセバル	20	21.7	17.3				
コガ	7	14.7	12.0								
イワオ	10	14.0	11.5								
平均(計)	(145)	14.4	11.7	平均(計)	(140)	19.9	16.5	平均(計)	(61)	21.0	16.6

Jun ONAGAMITSU (Fukuoka Pref. Forest Exp. Stn., Kurogi, Fukuoka 834-12) and Zentarō KURANAGA (Present Address; Nishikajio 615-6, Hokubumachi, Kumamoto 860)
Comparison of the damage caused by *Epinotia granitalis* among Sugi (*Cryptomeria japonica*) cultivars in Fukuoka Prefecture.

つぎに胸高直径と被害痕数との関係について、3林分のすべてをまとめて図-4に示した。この図から、胸高直径が大きくなるほど地上高2mまでの食痕数は減少する傾向がみられた。これは3林分とも、またすべての品種についても共通の傾向であり、さらに樹高に対しても同様の結果であった。このことはスギが大きくなるほど地際部分の被害(食痕)が減少することを意味している。しかし、大きなスギほど木全体の加害が少ないと言う意味ではなく、幼虫初期の加害部である樹冠部からの距離が増すため、地際部まで移動してくる幼虫が少なくなるためと思われる。

引用文献

- (1) 山崎三郎ら：96回日林論，515～516，1985
- (2) 倉永善太郎ら：日林九支研論，38，217～218，1985
- (3) ————ら：—————，40，175～176，1987
- (4) 川野洋一郎ら：—————，40，179～180，1987

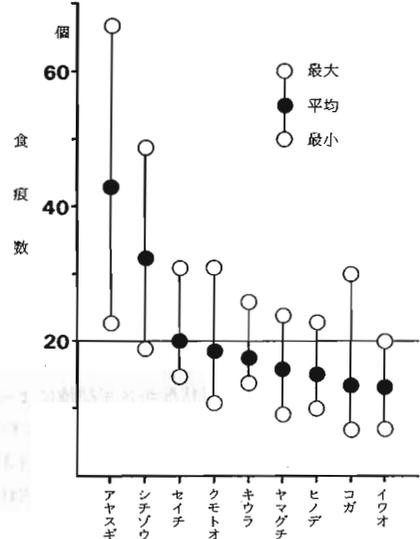


図-1 星野 I の食痕数

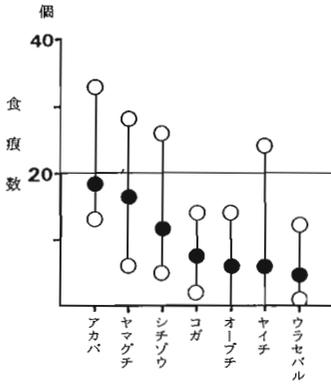


図-2 星野 II の食痕数

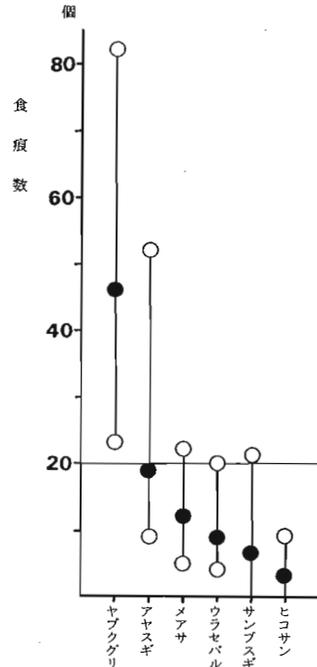


図-3 矢部村の食痕数

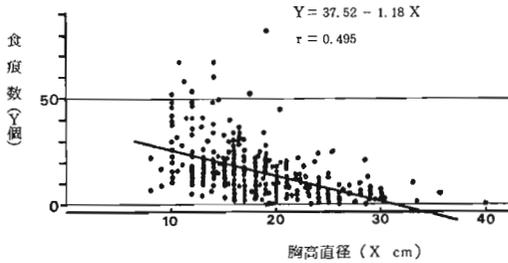


図-4 全体の胸高直径と食痕数との関係